

趣意書

「データサイエンス教育の必修化を巡って」

データサイエンス（以下「DS」という。）教育の全学必修化がすすんでいる。DS教育とは、文部科学省の「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」によると、「数理的思考やデータ分析・活用能力をバランスよく修得させるような教育内容とすること」および「専門分野における応用展開や社会における課題解決等に活用できる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する必要」とされている。文部科学省は、DS教育の全国の大学への普及・展開の加速化を図るため、拠点校6大学、協力校23大学、特定分野協力校7大学、連携校34大学を設置している。さらにデータサイエンスを教育研究の主軸とするDS学部の設置も増えている。

DSは、数理統計学の研究の成果に立脚しながら、応用先は、社会、人に関する問題解決にも関係し、文理融合的側面を強くもつものである。すなわち、データ利活用の現場で相互補完的な専門性を有する仲間とコミュニケーションを図りながら、データから価値のある情報を取り出し、それを意思決定に活かす能力を備えた文理融合型の人材を育成することを目指す。これまで、掛け声ばかりで実質的に進んでこなかった文理融合教育の実現に大きく寄与するものと期待される。

現在の高校教育では、文系理系で、特に数理に関係する教育内容に大きく差が出てくるような制度になっている。DS教育の全学必修化がすすむと、大学入試の内容に影響を及ぼし、高校教育の内容に関して、DS教育に意識した実装を求められると予想される。さらに、小中学校の指導要領の内容にも関わってくるものと推測される。

DS教育の全学必修化を検討する際に、大学での現教員がDS科目を担当できるかどうか不安を抱える場合も多い。この場合、現教員がDS教育担当に相応しい知識を習得するための機会が必要となる。または、他大学で開講するDS科目を受講できるようにするなど大学間連携の促進も加速するものと推測できる。

以上のように、現在、大学の全学共通教育において、DS教育の必修化に注目するようになったが、各大学において、DS教育を設計・実装するには、どうすべきであるのか、いくつかの問いを提起したい。

1. DS教育必修化にあたって、文理融合教育の実現をどう実現するか？
2. DS教育必修化にあたって、高大連携を構築するうえで、何が課題か？
3. DS教育必修化にあたって、大学間連携の促進をどう加速したらよいか？